

## 活動・チャレンジプログラム助成団体用

### 平成23年度 年賀寄附金配分事業成果報告・自己評価書

\* 該当する□を■としてください。

整理番号	00010	評価書作成日	平成24年 月 日	
団体種別	<input type="checkbox"/> 1 社会福祉法人 <input type="checkbox"/> 2 更生保護法人 <input type="checkbox"/> 3 公益社団法人 <input type="checkbox"/> 4 公益財団法人 <input type="checkbox"/> 5 特例社団法人 <input type="checkbox"/> 6 特例財団法人 <input checked="" type="checkbox"/> 7 特定非営利活動法人(NPO 法人)			
団体名称	(団体種別は記載しないでください) ぶうしすてむ			
団体代表者氏名	川崎 壽洋	役職	理事長	印(必須)
団体所在地	(郵便番号 790-0821) 愛媛県松山市木屋町3丁目12-7 TEL:089-923-5002    FAX:089-923-5020    団体HP:http://www.busystem.jp/ Email:staff@busystem.jp			
評価書作成者	二神 重則	役職	副理事長	
作成者連絡先	TEL:090-2783-1749    FAX:089-923-5020 Email:futagami@busystem.jp			

配分申請事業の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 1 社会福祉増進 <input type="checkbox"/> 2 非常災害救助 <input type="checkbox"/> 3 特殊疾病研究 <input type="checkbox"/> 4 被爆者援助 <input type="checkbox"/> 5 事故水難救助 <input type="checkbox"/> 6 文化財保護 <input type="checkbox"/> 7 青少年健全育成 <input type="checkbox"/> 8 健康保持増進 <input type="checkbox"/> 9 留学生援護 <input type="checkbox"/> 10 地球環境保全			
実施事業名	(申請書記載の事業名を転記してください。) (重度)障害者就労の為にパソコン技術習得支援と活躍する場として地域のネットワーク形成			
実施した事業の内容と成果	(助成事業につき実際に実施した内容とその成果につき、一般の方々に分かるように300字程度にまとめてください。) 県下各地の障がい者本人と支援者を交えた講習会に対する要望などの検討会を行った。 パソコン講習会などのIT技術支援は根強いニーズが各地にあることが分かった。 就労支援のためのIT利用を知るため、先進地や企業への見学を行う必要を感じた。 久万高原町(過疎地)での研修を実施した。 多くの受講希望者があり、視覚障害者に対する支援に課題があることが分かった。 宇和島市で主にニートの人たちにパソコン研修を2シリーズ実施した。 半年後受講者の2名が就労した。 砥部町で実際の仕事に結びつく研修を実施した。 松山市で就労に必要な「課題解決セミナー」を開催した。			
実施時期	(開始) 平成23年 5月 ~ (終了) 平成24年 3月			

事業費	区分	配分金額(a)	自己負担額(b)	事業総額(a+b)
	実施計画時	558,000円	58,000円	558,000円
	完了時	558,820円	58,820円	558,820円

添付資料およびホームページ：

<p>添付資料：                  (助成による実施事業報告・紹介等の資料があれば資料名を記載し、添付してください。添付資料名を助成の成果物として年賀寄附金事務局でWEB掲載したり、刊行物に転載する等、ご紹介する場合がございます。あらかじめご了承ください。)</p>
1. 23年度 年賀寄付金 事業経過報告
2. コーチング研修 in 宇和島 チラシ
3. パソコン教室『JW-Cadを体験しよう チラシ
4. パソコン修理講習会 チラシ
5. 課題解決研修 チラシ
<p>実施事業に関してホームページ等に掲載した場合は、そのURLをご記載ください：                  (年賀寄附金事務局でURLをWEB掲載したり、刊行物に記載したりすることがございます。あらかじめご了承ください。)</p>
URL: <a href="http://www.busystem.jp/history2011-2012.html">http://www.busystem.jp/history2011-2012.html</a>

実施事業成果評価欄 (文字数等自由に記載ください。)

<p>質問1 申請時および実施計画時に想定した成果目標と比べて、実施した結果はいかがでしたか。申請書等を参照の上記載ください。質・量につきできるだけ数値で記載ください。年賀助成事業の開始年度を第1年次として年度を記載ください。想定目標については第4年次まで全て記載ください。実施成果については事業実施初年度から平成23年度完了分まで記載ください。</p>	
<p>申請書・実施計画書に想定した成果目標</p>	<p>実際に実施した結果としての成果</p>
<p>第1年次(平成20年度)</p>	
<p>障がい者の就労や社会参加を進める為のパソコン講習会を、えひめ障がい者就業・生活支援センターの協力の下、各地社協や障害者支援センターと検討する。</p> <p>地域でのパソコン講習会の開催。</p> <p>在宅重度障がい者に対するパソコン講習の支援として、講師の派遣を行う。</p> <p>地域の障がい者へのIT研修を通じたネットワーク化を図る。</p>	<p>四国中央市と西条市は受講者による地域の障がい者のネットワークの活動が見られるようになった。</p> <p>大洲市は、IT研修受講者3人の就職が決まった。</p> <p>新居浜市 ムーバブルタイプ講習会4日間参加障害者6~7名(重度4~5名)</p> <p>松山市 在宅重度障害者向け、講師派遣とリモートコントロールを使った研修 受講者重度1名</p> <p>その他の研修を3種開催した。講師が重度障害者 受講者の内1~3名の重度障害者が参加</p> <p>西条市 CADの講習を実施。講師は重度障がい者</p> <p>障がい者の仕事や支援団体の紹介をするイベントの開催を支援センターと検討した。</p>

第2年次（平成21年度）	
重度障害者を講師に育成する事業	松山市で助手としての参加や一部講師をするHPプログラミング研修4日間開催し講師への育成を図った。
在宅重度障害者に対する個人レッスン	リモートコントロールを使った研修を行った。22年に自営で事業を始めた。愛媛県大洲市在住
在宅障害者就労向けの研修	四国中央市の重度の方6名にFLASHの講習会を行った。
地域での研修	八幡浜市にて精神障害者対象のIT研修を開催。育成した障害者講師の活躍の場とした。
第3年次（平成22年度）	
障がい者向けのパソコン講習会 未開催の地域での開催	今治地域においてCAD仕事の見込みがあり重度障害者3名の育成を図る。 宇和島地域 地域の支援センターと協力し10月に開催。在宅重度障がい者の講師育成も図る。
在宅重度障害者に対する講習の実施	久万高原町での第2回目のIT研修
支援者や受講者を交えたネットワークの育成	過去開催地域の支援者・受講者とのネットワーク会議開催準備をした。
第4年次（平成23年度）	
ネットワーク会議の開催	6月、開催。 開催地域の支援者・受講者と反省と今後の展開について話し合いを行った。
重度障害者IT講師への育成事業の継続	障害者施設への派遣講師として2名の育成をした。
松山市を中心に仕事に結びついた研修の開催	造船CADやパソコン修理研修を行った。
県下各地のIT研修会の実施	宇和島やその他の地域でCADやホームページ作成の講習会を行った。発達障がい者やニートに対する支援としてコーチング研修を実施した。
質問2 上記において達成できなかった事項のある場合は、考えられる要因と今後の改善方針を、また達成できた事項につき達成のために特に行った工夫等のある場合はそれを記載ください。事業実施以前に比べて実施後には何がどのように改善されたかを記載ください。	
県内各地の支援者との話し合いの中で、障がい者の要望としてパソコン講習会の開催が望まれていた。また、この助成事業で実施した研修に参加した障がい者に就労や社会参加した人が出ていることから、講習会を行った意義があると思っています。	

障がい者向けのパソコン講習会を実施するために、開催のための費用負担とそれらのコスト削減あり、これからの方向として、地域で地域の人々の力による開催を心掛けたい。

達成できなかった事項？

遠隔地での講習会の開催。距離的な面や講師の手配など課題があり要望があった地域の開催が出来なかった。

今後の改善方法として、遠隔地の人たちが主体で、講習会などの開催をする様に促したい。

質問3 質問1・2を踏まえ、平成22年度実施事業の成果を全体的に見て、5段階の自己評価を行なってください。また、その評点とした理由を記載ください。評点は5：目標を大幅に超過達成 4：目標を達成 3：目標達成未達成相半ば 2：目標未達成 1：大幅に目標未達成 としてください。

評点：4

評点の理由：

計画していたところのパソコン講習会は一定の効果を上げて終了したと思います。

講習会終了後の参加者は、それぞれが社会参加やグループでの仕事、就労などしています。

質問4 関係者の方々の事業実施前後についての感想は変わりましたか。利用者やその御家族の声を記載ください。また、地域の方々、自治体関係者、貴団体の一般職員・役員、貴団体のサポーター等の声を記載ください。アンケートをとられた場合はその由記載ください。本事業がメディアに取り上げられた場合はその由記載ください。本助成事業の実施はどのような方々の何人くらいに知っていただいているでしょうか。記載ください。

関係者の反応

受講した障がい者本人。

受講者間のネットワークができて地域の高齢者にパソコン講習会をするなどの活動をしている。就労系の施設へ行く人がいる。受講した講習会の技術を本格的に学ぶ人もいる。

多くの受講者から感謝されている。

支援員

障がい者の要望が多い講習会ができた事と、その後の受講者の姿を見て評価してもらっていると思う。

本助成事業の実施はどのような方々の何人くらいに知ってもらっているか。

受講生 講習会では必ず最初に貴社の名前を出して。チラシにも表示。150名程度の人に知ってもらったと思います。

支援者 各地の支援団体や個人に開催の相談や実際に開催した際に助成いただいていることを説明している。30名程度の支援員に知ってもらったと思っています。

質問5 今回、実施された事業は今後も継続していきますか。(その場合の資金や人材は、今後どのように準備されますか。今回の実施事業により継続のための基盤ができましたか。今後貴団体のどのような事業に年賀寄附金助成を希望されますか。)

実施された事業は今後も継続していきますか？

パソコン講習会は今後も継続してゆきたいと思います。

資金は受講者本人からの負担や支援団体の主催を検討します。

講師や助手は地域の人を活用することにより交通費などの節約になる。また、受講生が講師になることにより本人のモチベーションが上がりかつコスト削減になる。これらにより

今後も実施をします。

今回の実施事業により継続のための基盤ができましたか？

県下各地の支援者や団体とのつながりもでき、開催場所や環境も知ることが出来ました。今後はよりスムーズな開催が可能と思います。

どのような事業に年賀寄附金助成を希望されますか？

障がい者にとってパソコンは情報の入出力になくてはならないツールになっています。また、仕事においては健常者と変わらない作業が可能です。しかし、私どもの愛媛県ではパソコンと障がい者を結びつける、パソコンをサポートするところがありません。(他の県や大都市には障がい者ITサポートセンターがあります)

現在、週1回ボランティアによる「パソコン何でも相談室」を設け実施しているが、充分対応できていません。将来的には障がい者ITサポートセンターの事業を受託できるように、研修などをしたいと思っています。

その様なわけで、障がい者ITサポートセンターを設置できるための人材育成や諸設備の助成をお願いしたいと思っています。

質問6 今回の成果は社会に広く知ってもらい、広めていくべきと考えられますか。その理由とそのための方策をご記述ください。(従来にない新しい方法により成果を得たので広めたい、新しいツールを開発し成果を得たので広めたい、新しい調査報告を作成できたので広めたい等。)

地域で障がい者向けのパソコン講習会を開催することにより、就労の向う人が人が増えたり、グループで社会参加をする方がいたりします。パソコンだけでなく何らかの事業を継続することにより、今まで参加しなかった人たちの参加が想像されます。

福祉関係やハローワーク共に相談に行かない障がい者が多くいます。それらの人たちにパソコン講習会は、近づきやすい次の一歩になると思います。講習会は受講者同士の仲間意識が芽生えます、引きこもりの人が毎週出てきたり、受講生が講習会の助手になり講師になる例があります。定期的に家から出るとか、頼りにされているとか、その様なチャンスを生む講習会が良い方向になっているのではないかと思います。

質問7 今回の事業を実施できて何が良かったですか。(例えば、事業実施により団体の事業基盤が強化された、地域関係者との連携が強まった、地域の理解が深まった、広報が行われ団体の認知度が上がった、実績ができ他の助成が受けやすくなった、事業展開の基盤ができた等)

それが年賀寄附金の助成により行われたことで何が良かったですか。(年賀寄附金の知名度で地域での団体の信用度が高まった、他の助成が対象としない費用を年賀寄附金により支出できた等)

今回の事業を実施できて何が良かったですか？

今まで開催できていなかった遠隔地とか過疎地での講習会の開催が実現できました。お陰様で、県下の支援者に私どもの活動を広く知ってもらうことが出来ました。

昨年、私どもは就労系の事業をすることになり現在20名強の人たちと働いています。その中には今回助成をいただき開催できたパソコン講習会の受講者もいます。

年賀寄附金の助成により行われたことで何が良かったですか？

4年前は、私どもの知名度は低くまだまだ支援者には知られていませんでした。年賀寄付金の助成による講習会を開きたいと相談するとスムーズに運びました。

質問7 その他（要望等）、どのようなことでもお書きください。

助成事業を充実させるためにはその原資として寄附金付年賀はがき・切手を広く購入・活用していただくことが必要ですが、そのための貴法人様での活用策がありましたらご記載ください。よろしければ来年用の寄附金付年賀はがき・切手の貴法人の購入予定枚数を記載ください。

昨年同様、協力団体や支援者・団体への賀状は寄付金付きを使いたいと思っています。昨年私どもが開設した就労系事業所が順調に進んでいることや、今回の寄付金の事を書いて送りたいと思っています。

寄附金付年賀はがき・切手購入予定枚数： 80枚